

午後 1 時30分 開始

【広報広聴課長】 お待たせをいたしました。

定刻となりましたので、平成21年度最初であります4月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

最初に、お知らせを申し上げます。

報道の方に異動がありました。そのために、本日初めてこの会見に参加されます方を紹介申し上げます。朝日新聞、高橋様でございます。高橋様、一言ごあいさつをお願いいたします。

【朝日新聞】 よろしく申し上げます。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。

毎回申し上げておりますが、この会見につきましては、市のホームページ上で公開するなどにより録音をいたしております。発言の内容を鮮明に録音するために、発言される場合は必ずお手元のマイクを使用しての発言をお願いいたします。また、発言の際にはマイクのスイッチ、今日は初めての高橋さんもおられますが、マイクの下の方に銀色のボタンがあります。そのスイッチを入れていただいて発言をお願いいたします。発言が終わりましたなら、またスイッチを切っていただきたいと思っております。

本日の進行につきましては、お手元に配付の次第のとおり最初に市長のあいさつを、その後、事業発表したいと思っております。質問につきましては、最初に事業発表についてお願いいたします。その発表項目に係る質疑の終了の後にフリーの質疑へと進みたいと思っております。

なお、終了は14時30分を予定いたしておりますので、皆様のご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 新年度になりまして、今ほどご指摘ございましたように後ろのメンバーもかなり若返ったところでございます。私も当初は43で非常に先輩ばかりやったんですけれども、大分後輩も増えてまいりまして、心機一転、この4月新年度、心を入れて取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、発表事項に従ってお話しをさせていただきます。

まず第1点は、花換まつりと第6回ウォークのまちづくりの開催でございます。

お手元に資料がありますとおり、毎年多彩なイベントをやっておりまして多くの皆さん方に訪れをいただいております。特にウォークのまちということで駅から金ケ崎のほうにウォークをするというイベントを4月4日に、また花換まつりはきのうの夜から、そして15日まで開催をする予定でございます。内容等につきましてはお手元に書いてあるとおりでありまして、パンフレットも行っているというふうに住みます。恋の宮でありますので、ぜひ記者の皆さん方も一度行っていただくとありがたいというふうに思います。また、ウォークの街・敦賀のパンフレットもお手元に配付してあるとおりでございますので、またいろいろとPRをお願いしたい、このように思っております。

2番目でありますけれども、これも観光関連であります、敦賀湾フェリークルージングの開催であります。

これは4月29日水曜日ですけれども祝日になるわけですし、ランチバイキングとかいろんな抽選会を船内で行って敦賀湾のクルージングを楽しんでいただくというものでございます。内容等につきましてもお手元に書いてあるとおりでございます。かなり応募の数も集まってきているというふうに向っております。これもカラー刷りのいいパンフレットがございますのでごらんいただきたい、このように存じます。

次に、レジ袋の有料化実施後の状況ということでございまして、3月2日に私も行ったところでございますが、市内の主要スーパー、ドラッグストア、全14店舗で一斉にレジ袋の有料化をスタートいたしました。有料化初日のマイバッグ持参率は平均83%ということで、3月のマイバッグ持参率の平均は86%でございます。ほとんどの店舗で目標でありました80%を超える持参率が出ているというふうに報告を受けておるところであります。

1月に結んだ協定書の目標が80%でございますので、初日から目標以上の成果が得られ

たということ、ひとえに市民の皆さん方の大変なご理解とご協力のおかげであるというふうに思っておりまして、さらなる持参率の向上に向けまして、引き続き取り組みのご協力をお願いしたい、このように思っております。また、クレーム等については今のところないということでありまして、そういう報告は受けておりません。

次に、敦賀水産卸売市場の竣工式と初競りということでございます。

これは平成20年5月に着工いたしました市場でありますけれども、このほど完成をいたしました。事業主体によりまず竣工式並びに新市場での初めての競りが行われるわけでございます。日にちは、4月16日木曜日10時から竣工式がありますし、初競りは同じく4月22日水曜日、朝7時からということであります。初競りにあわせまして、6店舗入りしましたつるが大漁市場も4月22日にオープンをいたします。市場から搬出されました安心、安全な魚等を直売するところでございます。

そして、記者の皆さん方に施設見学会を4月3日、明日10時から記者の皆さん方に内容を見ていただくということでございますので、またぜひ取材等にお出かけいただければありがたい、このように思っているところであります。

私のほうからは以上です。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。

それでは、ただいま市長から発表いたしました発表項目、4項目について質問を受けたく思います。

最初に、幹事社のほうから質問をお受けいたしたいと思えます。

【記者】 事業ということで、レジ袋をお聞きします。

これを見ると、初日83%で、月平均が86ということで、既に80を超えて、どんどん日を追うごとに定着しているようなイメージありますけれども、この数字的なものについての受けとめはどのように思っていますか。

【市長】 やはり目標で、自分たちも例えば買い物にたまに行きますけれども、つついばっと寄ると忘れる。男は特に忘れるのが多いんですけども、これだけよく皆さん持ってきていただけるなということで大変ありがたく思っていますし、この数字が伸びているということは、それだけ市民の皆さん方が環境問題も含めていろいろやはり考えていただいているなということで、私は大変いい、ありがたい数字だと思っています。まだまだ伸びて、将来的に100%になれば一番いいかなと思えますけれども。

【記者】 4月に入って福井市とかも始まっているわけですがけれども、先行して敦賀市がやって、目標の数値は既にクリアしているというところの、今のところ順調にいった原因というのは市民の協力もあったというお話もありますけれども、例えば市のほうも協議会のメンバーとして努力されたところがあって、そういうことも要素なのかなと思うんですが、そのあたりをお聞きします。

【市長】 そうですね。いろんな委員会で皆さん方とか、本当にこれだけこのレジ袋の問題について関心を持っていただいたということは、いろんな関係の皆さん方のおかげですけれども、やはり基本的にはそれを受けとめていただいた市民の皆さん方の協力あってこそだというふうに思いますので、今後とも100%目指して、いろいろ運動はまだまだ続けていきたいと思えます。

【記者】 レジ袋に関してはだんだんこれからも数値は上がるかもしれませんがけれども、それだけでごみの削減、ごみ全体の削減にはなかなかまだ、それだけでは特効薬にはならないのかなと思うんですが、これについてはレジ袋以外のところの方策で何か今後。

【市長】 分別収集なども瓶とかも分けましたし、あとはいろいろ知恵を絞ればもっと削減できるはずですので、敦賀市は平均するとどうしてもまだ1人当たりのごみの排出量が他市よりも多いというデータがありますから、ぜひそれをクリアするように今後ともいろんな形、分別の細分化もありましょし、いろんなことを通してごみの減量にはこれからも引き続き努力していきたいと思えます。

【記者】 水産卸売市場なんですけれども、これ何か結構密封型で安全、安心の敦賀の魚という感じでオープンしますけれども、市長が最も売りにしたいところと、今後の県内外へのPR方法を市としてどう考えていらっしゃるかを教えてください。

【市長】 これは日本海側に本当に2つ目となる非常に近代的な魚市場でありますので、衛生管理も非常に行き届いておるといことで、今特に食の安心、安全ということが非常に国民ひとしく関心のある時代でありますので、やはり安心して本当に安全な魚。特に敦賀の魚というのは非常にうまいというふうに言われておりますし、いろんな人からそういう声を聞くものですから、おいしい魚をより安心して安全なものが提供できるということが一つの売りかなというふうに思っております。

やはりPRは大事でありますので、またいろんな観光宣伝等もついて、競り状況は2階のほうから見学できるようになっておりますので。それと直売所もできますから、恐らく営業も早くやりましたし、いろんな観光方面の皆さん方にもPRし、寄っていただくような手だて。これはまた観光協会とか魚商を初めいろんな魚の関係の皆さん方と連携をして、十分に宣伝を行い、多くの皆さん方があそこの地に訪れてくれますように。

それと、近辺には博物館通りもございますので、あそこの連携もとっていけばある程度いけるかなと。ただ、バスとなりますと駐車場問題がちょっとございますので、まず蓬萊の通りなどにも、もしできればバス専用の駐車場みたいなものが、これはまた公安当局とかいろいろ関係しますけれども、一時的にバスがあそこに置いて多くの皆さん方が訪れるようにしたいのと、また将来的には駐車場をしっかりと確保していきたいなと思っております。

【広報広聴課長】 幹事社2社、それであると質問ありませんか。いいですか。

それでは、各社に質問を受けたいと思います。発表項目について質問のある方は挙手をお願いいたします。

【記者】 水産卸売市場をもうちょっと。競りの時間というのは何時までなんでしたっけ。

【産業経済部長】 10時ぐらいまでというふうにお聞きしております。

【記者】 そうですね。

【産業経済部長】 ただし、そのときでも水揚げの量とかそういうものによって多少時間は変わるかなというふうに思っております。

【記者】 観光の目玉ということで期待をしていたんですけれども、大体人が動き出す10時過ぎぐらいになったら誰もいないんじゃないかという声が既にもう上がっているので、その辺ビデオだけでは寂しいので何か手だてがあるんだろうかという話が、観光協会なんかからもう出ていたから、その辺で何か対応策というのはあるのかなという、その辺はどうですか。

【市長】 競りというのは大体朝早くやるのが普通でして、そこから流通経路に乗っているいろいろ行くものですから、例えば競りの時間を観光に合わせてずらすということは非常に難しいかなというふうに思います。できれば競りは朝するものですから、朝観光といえますか、少し早目な設定になりますけれども、そういうものもある程度入れなくちゃ、せっかく来ていただいてもがらんとした市場を見てもらってもどうにもなりませんし。直売所がありますので直売所は寄っていただけたらと思いますけれども。時間調整、例えばイベント的には、またそういう関係者と相談して、このときにはたくさん来るので少し時間をずらすとか、そういうことも検討はしなくちゃならんかなとは考えております。

【記者】 あの辺の船だまり周辺の話は、実は午前中に敦賀商工会議所の新年度重点項目の発表が記者会見であって、中心市街地の話がかなりメインになったので。そうするとここも含めて、そうすると敦賀酒造さんの話がなかなか見えにくい。ある程度行政のほうがおぜん立てということになりますと、特に、いつごろ申請をされるのか。またそういう今の進捗状況はどうなんだろうかというのは行政に聞いてくれという話になったものですから、中心市街地、特に敦賀酒造さんについて、ちょっと経緯と現状について教えていただけますか。

【副市長】 今、目標はやはり議会で市長答弁されていますように5月申請に向かってやっているんですが、若干国の動きとして、今年は早目の前倒しを打ってきているものから、そのあたり詰めを急いでおります。

それから、中身につきましては国といろいろやりとりをしておりますけれども、より具体的なものが盛り込まれないと申請を受け付けられないというような状況になっておりますの

で、その詰めを今商工会議所と行っております。

その中で、やはり今言われたように敦賀酒造の件が目玉ですので、それをより具体的なものに盛り込まなければならぬ。敦賀酒造側にとってはあっこを登録文化財にしたいんですが、まだ敦賀酒造さんからのご了解がいただけない状況です。そこを今関係者に働きかけているのが今の現在の状況です。

【記者】 ちょっと飛ぶんですけれども、新幹線の話も会議所との話で出て、駅舎問題の前倒しというのがかなり要望として強いと。といいますのは、新幹線の駅舎の位置については当然政治的な決着なんですけれども、やはり拠点化計画が進むということになると、それなりの教授の皆さんとか学生の皆さんが敦賀に集まってくる。そのときの。

【記者】 その他の項目でもいいんですか。

【広報広聴課長】 最初は発表項目についてのみの質問でお願いしたいんですが。

【記者】 ごめんなさい。そんなら後に回します。

【広報広聴課長】 お願いいたします。

ほかに発表項目につきましての質問、ございませんでしょうか。

【記者】 レジ袋持参の件で、3月平均の86%と順調なんですけれども、例えば次、半年で9割超えとか何か当面の数字目標とかありましたら教えてください。

【市長】 4月の下旬に例の協議会があるんですけれども、そこで各事業者から有料化後の状況の聞き取りを行いまして、そこで目標数値を90にしようとかを決めるということでございます。やはり実質やっていたいただいている皆さん方のまず意見を聴取してということでもありますので、協議会の中ではある程度方向性が出るんじゃないかと思えます。

【広報広聴課長】 ほかにございませんか。

【記者】 まず、レジ袋の件でもう一つだけお聞きしたいんですけれども、スーパー、ドラッグストアだけではなくて、一般の商店などでもレジ袋を使わないように賛同するような呼びかけも確かありましたね。それに関してはどれくらいの商店なり事業者から賛同があったのか。その辺のところは何か数字出ていますでしょうか。

【市民生活部長】 今、ホームページ等でその事業者を募っておる状況でございます。今現在におきましては8事業者14店舗になっていますが、昨日から敦賀のほうのゲンキーさん、3店舗が4月1日から有料化になっておりますし、計9事業者の17店舗ですか、そのように増えておりますのが現状です。

あと一般小売店、またコンビニ等はまだ少々無理がかかっているのかなと思えます。これは協議会を通じて徐々に浸透していきたいというふうに考えております。

【記者】 それと市場の件で、先ほど市長のほうからやはり駐車場の確保、これが一つ大きな課題としてあるということなんですけれども、ただ単に市場に向かえばそれでいいというものではなくて、やはり動線というものがよく言われますね。歩きながらそちらのほうに向かっていると。そういう意味では、港、それから商店街、本当に位置しているわけで、具体的にどのあたりにどのようなというふうな何か青写真はありますか。

【市長】 駐車場のですか。

【記者】 駐車場です。駐車場含めた動線の関係です。

【市長】 まだちょっと具体的にはできないんですけれども、構想の中ではいい場所に駐車場を。大体中心部にいろいろ検討しておりますけれども、何とかそういう土地を確保していきたいなど。

バスに乗るお客さんによっては近くへ行きたいという人もいますので、まず魚市場近辺にとめて、そこから動線とすれば敦賀酒造のあたり、博物館通りはぐるっと1周もできますし、余り遠いとなかなか高齢化時代ですので歩けといっても。元気な人または歩く人は歩く人なりの対策を今ウォーキングの街でやっていますけれども、やはりいろんな年代層のお客さんをターゲットにしようと思うと近くにあったほうがいいかなとは思っています。

【記者】 ちょっと話があれですけれども、函館に私行ったときに、函館にも同じように朝、市場の競りとか観光客が参加できるというか見学できるような観光スポットがあるんですけれども、やはり朝7時からみんな行くんですね、バスで。私も行きましたけれども。

朝8時から海鮮どんぶりを食べたりしていたんです。そのときでも直接市場に行くんじゃないくて、やはり近くにおりて、そこから歩いて市場に行くというような形になっていましたし、せっかく港がありますし、倉庫群もありますし、何かそこらあたりでと。ちょっとしつこいようですけども。

今、中心地にと市長のほうから言葉があったんですが、これは具体的にどのあたりを考えていますか。

【市長】 中心地です。商店街も歩く必要もありますし、いろんなところで。

やはり駐車場というのも上手に配置をしないといかんのですが、やっぱり場所が要るもんですから、その土地をどのように工面するかということがちょっと大きな課題なんですけれども、そのあたりを視野に入れて今計画を練っていますし、それとおっしゃるように港から金ヶ崎公園、あの線ですね。今の状況だけですとちょっと歩くのにまだ魅力が、緑地から魚市場まで歩こうと思ってもちょっと魅力がないもんですから、おかげさまで新しい港も徐々にできてきておりますので、そうすると古い倉庫群がいろんな活用方法ができると思うんです。あそこに買い物ができたりいろんなことであれば人を動線として引っ張れますので、そのあたりも含めて、これはかなり前からポータルネッサンス21ということで図面をもらになったと思うんですけども、ああいうものを一步步実現していきたいなと思っています。

【広報広聴課長】 ほかに発表項目につきましての質問ございましたら挙手をお願いいたします。

ないようですので、それでは発表事項についての質問はこれまでとさせていただきます、次に次第の3番目、フリーの質疑応答に入りたいと思います。

これも最初に幹事社さんのほうから質問をお受けいたしたいと思います。

【記者】 この間、25日に国道8号の2車線化の答申が市長に渡されたと思うんですけども、その答申の中身の感想と今後のスケジュールをちょっと教えてもらってもいいですか。

【副市長】 答申が25日にありまして、その後すぐ国土交通省のほうへその答申書を、県にもですがお持ちして、道路管理者としてこれを何とか、この構想を実現するような整備計画をお願いしたいということを通じてお話ししてきました。人事異動等でいろいろトップの方が変わられたということもありましたけれども、そういうことに関しましてはかなり積極的な発言というんですか、道路管理者としての責任を感じるような発言がありました。

だから、今後はそういう形で21年度は進んでいくのかなというふうに思います。

【記者】 すごい極端なことを言いますけれども、もし仮に国交省なり県がお金を出さなかった場合、市が出してやるということもあり得る。

【副市長】 いや、やっぱりそれは道路管理者は今現在、国道8号ですから国土交通省なので、それは国土交通省のほうでおやりいただくというのが筋じゃないかなと思います。

【記者】 この間、原発の耐震の安全性に関して、事業者のほうから従来設定していた基準地震動を国からの指摘を受けて見直さざるを得なくなって見直しました。ところが、重要な機器の安全性には問題ありませんというような報告が改めてありましたけれども、その基準地震動、大事な数値だと思うんですが、これがたびたびというか、1年でまた見直されてしまうというこの状況と報告内容について、市長はどのように受けとめているんですか。

【市長】 基準を上げたということは、より安全を重視して上げてきたんだというふうに思いますし、中越沖地震なども十分視野に入れながら、参考にしながらその基準をつくってきたというふうに思いますので、それは決して悪いことではないなというふうに思います。

その時々いろんな自然現象なども取り入れていくということが大事でありますので、今回、主要機器には大丈夫だということが出ましたから、もう少し安心なところは増えたかなというふうに、プラス面はあったかなというふうに思います。

【記者】 ただ、逆に不安な面というところはお感じになりませんか。住民感情も含めて。

【市長】 不安というのは何をもって不安なんです。不安というのは思いですから。

原子力発電所に関しては無いほうが一番安心なんです。でも、現にありますし、あるがゆえにしっかりやってほしいということで私ども国等に対して常々物を申しておりますし、そういう観点からいけば、現在知り得るいろんな知見などをもとにした、参考にした結果で主要機器は大丈夫だということでありますので、それを私どもは信じたいと思います。

【広報広聴課長】 それでは、各社質問ありましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 さっきの続きで。なかなか目玉がなかったものですから引っ張り出そうと思つて。

公共事業の前倒しも含めて、とにかく駅舎の問題をえらい会議所さん中心に気にされていて、大義的にはやっぱり拠点化を進めるにはちゃんとした玄関口つくらんといかんよという話を、それを確かに議会はあるものの、理事者側として腹をくくって6月議会に出してほしいというのが会頭の意向であったので、それを受けて駅舎改築問題をどうするのかというのをちょっとお伺いしたいと思います。

【市長】 これは議会でも答弁させていただいたとおりでありまして、バリアフリー法の法律もありますし、やはりバリアフリーは一日も早くしてほしいというのはこれは市民の皆さん方の声でありますし、多くの皆さん方も駅舎を改築することについては余り反対の声を私自身は聞いてはいないんですけれども、議会の立場で費用対効果等でお話が出たんですが、今の全体の状況を把握すれば、やはりこれは改築を早くやる必要があるという声が私は多いというふうに受けとめておりますのと、先ほど言いましたバリアフリー法との関係もありますので、余り時期をずらすわけにもいきませんから、6月か遅くても9月までにはしっかりした計画を立ち上げて臨んでいきたいとは思っております。

【広報広聴課長】 ほかにございませんでしょうか。

【記者】 ちょっと話がずれますけれども、例の北朝鮮のテポドン問題ですが、その4日以降は市長はどのようにされるご予定でしょうか。どういうふうに準備される予定ですか。

【市長】 国の情報収集をする体制は今も整えておりまして、副市長が本部長になる予定で、私は市内にはおる予定であります。

【記者】 先日、副市長には伺ったんですけれども、市長にちょっと伺いたいんですが、やっこの間答申が出て、これから具体的にするのにまたこれから詰めていかないといけないというような状況なんだろうと思うんですが、道が変わろうと、変えようとしているわけなんですけれども、あそこににぎわいを集めてくるためにはやっぱり住民なり商店街なり、それから市なりが、みんなあそこいろんな力を注ぎ込まないと、道だけ変わってもまちづくりにならないかなと思うんですけれども、そこら辺いかがでしょうか。

【市長】 おっしゃるとおりでして、幾ら道が良くなりましようとも魂が入っていない道路ではこれはもう絶対にだめだと思っています。そのためには、私ども行政の立場でも一生懸命やりますけれども、やはりそこに、一番身近にいらっしゃる商店街の皆さん方も、これはもうぜひ頑張ってくださいというふうに思っておりますし、詰める部分では先ほども副市長言いましたけれども、もうこれは国としてやっていただくように私どもは詰めていくだけで、大体の青写真はできましたので、あの方向性の中で国にしっかりお願いをして、なるべく早くああいう道路をつくっていただくように働きかけてまいりますし、それとあわせて地域住民の皆さん方の応援もいただけるように精いっぱい頑張りたいと思います。

【記者】 市としてはそこはこれからどうかかわっていかれるんですか。

【副市長】 今はちょっと、でき上がったのがいわゆる構想であるということですから、これを実現するにはやはりできること、できないことはあると思うんです。我々の夢を形にするようなことですから。その整理はやはり実務レベルでしっかりと国、県にもお入りいただきながら、市も当然参加して、そして住民の思いを形にすると。より100%に近い形で実現できるように、これは事務的に詰めていかなあかんというふうに思っております。

【広報広聴課長】 ほかにございせんか。

【記者】 テポドンの関係で、副市長が本部長をされるその本部というのはどういう姿で。

【市長】 副市長が室長ということで、市の連絡室という組織を立ち上げて、いろんな情報収集をしたいなと思っています。

【記者】 正式名称は。

【市長】 敦賀市国民保護対策情報連絡室です。

【市民生活部長】 今現在、発射するまでは、今市長言いましたように国民保護対策の情報連絡室を、今、防災課が主導になって連絡室を県と相互連携をとっております。

今度、打ち上げたことが判明した場合、また打ち上げることが確実なような状態になった段階で、敦賀市国民保護対策連絡室を副市長が室長となって立ち上げるということをご予定しております。

以上です。

【記者】 その連絡室なりは、体制は何人体制とか何かあるんですか。部の横断とか何か。

【市民生活部長】 後ほど資料を出させていただきます。

【広報広聴課長】 ほかにございませんか。

【記者】 福島県のあるところは、原発のごみのことなんですけれども、最終処分場に手を挙げたとかという報道があって、その首長が言うには、自分のところで出した原発のごみは自分で片づけなくちゃいけないでしょうという話をしていたんですけれども、そのことについて河瀬市長はどういうふうにお考えかということ。

【市長】 一般廃棄物ですと自区内処理が原則ということで、極曲のごみ問題もそこが大きな問題になっていたわけでありまして。その自区内処理という観点になれば、もしそういう場所があれば処理するのは別に福島県の首長が言われたことは極めて適切かなと思いますけれども、ただ私ども約束事がありまして、発電所から出たごみはほかで処理をしないというそういう協定があるもので、やはりそれは。要するに、といいますのは原子力というのは国策で国が取り上げるところで、私どもは発電所をやりますよ、あるところでは中間貯蔵をやりますよ、あるところは最終処分場をやりますよということで、みんなが役割分担をしていこうというスタンスがずっと続いておりましたし、今もそうなっています。

ところが、最後になって一番最後のところを受け入れるところがなかなかないということがよく出ていますので、そういうことで福島の場合、場所があれば自分のところでやるのがいいかなという考え方には共鳴はできますけれども、これは全原協という立場でそれぞれ自治体の皆さん方の考え方もあるところありますし、今は私ども福井県は福井県としてそういう協定の中で結んでいますのでできませんが、そういう意見もあるなということも参考になるかならんかわからんですけれども、聞かせていただきました。

【広報広聴課長】 ほかにございませんか。

【記者】 もんじゅについてお伺いします。

原子力機構は今月上旬に運転再開時期について明らかにしたいという方針でまだ変わってないようなんですけれども、いつごろを言ってくるのか。運転再開はいつなのかというのはわかりませんが、今回、関係機関と調整した上で公表したいという話なんですけれども、これはいつになるか明らかになるかわかりませんが、その公表というのは、例えば万が一それがずれたりすると市としては原子力機構に対する信頼というのは著しく損なわれるんじゃないかと思うんですけれども、そのあたりはどのように思っていますか。

それだけ重要な公表じゃないかと思うんですけれども。

【市長】 確かに今いろいろ審議をされておるところでありまして、予定では4月下旬にその時期を私どもに報告に来られるかなというふうには思っておりますけれども、ただ、基準地震動、また施設の耐震安全性について国の評価がまだ出ていない状況でありますので、それがやはり出ませんと運転するとはなかなか言えないのかなという気もします。

私もいつも言っておりますけれども、確かに変わったりずれていくというのはいいことではないんですが、やはり安全のためにチェックをして、またそこが不安ならまたチェックをしてということでもありますので、これは大丈夫だとみんなが太鼓判を押してからでもいいと思うんです。だから、時期というよりも安全であれば、安全に関することであれば、これだけ待たずれたんですから、安心に近づくことであれば時期の変更等についてはや

むを得ないと思っておりますので。

【記者】 ただ、その一方で、もんじゅが動かないとエネルギー拠点化計画も何もかも前進していかないのではないかと思っております。そのあたりのジレンマみたいなものをお感じになることはありませんか。いつになるんだと。

【市長】 もちろん拠点化については、これはもう昨日も福井大学の研究所が開所いただきました。関係の皆さん方に本当にお礼を申し上げたいと思うんですけども。拠点化はまた一つの、現にもんじゅも立地していますいろいろな発電所の型があるところなんです。それらのことで拠点化を進めるわけでありますので、もんじゅが遅れたからどうのということによって拠点化は私は遅れるものではないというふうに思っています。

【広報広聴課長】 ほかに質問ありましたら。

【記者】 現実的なのとか、明日の話なんですけど、明日の市場の見学会なんですけれども、これは何もないところで建物の説明だけしていただけるというようなことなんですか。

【産業経済部長】 今聞いているところによれば、報道の皆さんのみを対象とさせていただきまして施設の中をご案内させていただくというふうにお聞きしておりますので、この時間にお立ち寄りいただくのが一番よろしいかなというふうに思っております。どうぞよろしく願いいたします。

【市長】 何時から。

【産業経済部長】 10時です。

【市長】 競り終わるとるね。

【記者】 競りはまだないんでしょう。

【市長】 あ、そうか。競りはまだ。22日からや。何もないところやね。

【記者】 魚商組合か漁連の方が説明してくださるということですか。

【産業経済部長】 そうでございます。

【広報広聴課長】 ほかにありますでしょうか。

ないようでしたら、これにて本日の4月定例記者会見を終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

午後2時13分 終了